

## 英語コミュニケーション科の特徴

「明るく・楽しく・面白く」「英語嫌いを出不さない」授業スタイルにこだわって担任とALTが手探りで授業を考えている。特徴として以下の点が挙げられる。

- 1 ALTがT1, 担任がT2の役割を果たす授業を基本としている。授業では担任はT2であるが、授業のマネジメントを行う。また、担任がALTと積極的にコミュニケーションをとり、彼らの良さを知ることが重要と考えている。
- 2 「何を育てるのかを明確にした」アクティビティを中心に、1時間たつぷりと活動させる。その授業で「何を育てるのか」「どのように育てるのか」「コミュニケーション能力の中のどんな力を身に付けさせたいのか」を明確にしたアクティビティを考えていくことを大切にする。
- 3 ALT(ネイティブ)が話す英語を1年生から6年間、シャワーのようにたつぷり聞かせることをベースとした言語活動に取り組ませる。
- 4 児童同士、児童とALT, 児童と担任によるコミュニケーション活動を、発達段階に応じた題材を介して、繰り返し指導していく。そのために、目の前の学級の子供たちの実態から授業を考えることを大切にしている。

### ★ 亦楽小児童へのアンケート(R6の結果より)

#### 【Q. 英語コミュニケーションの授業は楽しいですか?】

	とても楽しい	楽しい	少しだけ楽しい	楽しくない
亦楽小	52%	38%	8%	2%
	90%		10%	

#### 【Q. 英語を使ってもっとできるようになりたいことは何ですか? \*複数回答】

	英語で話せるようになりたい	英語で簡単な意見発表ができるようになりたい	英語を聞き取れるようになりたい	英語の文を書くことができるようになりたい
亦楽小	87%	41%	77%	59%



- ・「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童は90%と高い結果である。しかし、10%の児童はあまり楽しさを感じていないという状況である。
- ・英語を「話したい」「聞き取りたい」と回答した児童は約80%と高い結果である。

#### 【成果と課題】

- 英語を使ったゲームの楽しさはもちろんだが、ゲームを通して味わえるコミュニケーションをとることの楽しさに、喜びや心地よさを感じている児童が増えてきた。
- 自分が感じたことを、英語を使って伝え合う活動を通し、児童はより自分自身のよさや考え方に気付き、相手の新たな一面を知るきっかけとなっている。
- ▲「話すこと」「聞くこと」に関しては意欲的な児童が多い反面、「書くこと」「読むこと」が難しいと感じている児童も多い。その苦手意識を軽減し、いかに「明るく 楽しく おもしろい」授業づくりを行っていくかを考えていく必要がある。

